

あなたはこれを乗り越える（新約聖書：第一テモテ 1 章 17～20 節） 2020.08.09

<https://www.youtube.com/watch?v=999Zt-v6J1I>

『あなたはこれを乗り越える。』おはようございます。第二礼拝へようこそ。第一テモテを節ごとに見ています。今日の箇所は第1章17節から20節です。オンラインで参加して下さい嬉しいです。ここ地元の皆さん、聖書を開かれたら、出来ればお立ち下さい。難しければ座ったままで大丈夫です。神の御言葉を読んでいくので、目で追って下さい。使徒パウロは、聖霊によって若い牧師であるテモテに、こう書いています。

### 第一テモテ 1 章

17 どうか、世々の王、すなわち、朽ちることなく 目に見えない唯一の神に、誉れと栄光が世々限りなくありますように。 アーメン。

彼はここで終わりにすることも出来ました。でも、終わりません。

18 私の子テモテよ。以前あなたになされた預言にしたがって、私はあなたにこの命令を委ねます。

それは、あなたがあの預言によって、信仰と健全な良心を保ち、立派に戦い抜くためです。

19 ある人たちは健全な良心を捨てて、信仰の破船にいました。

20 その中には、ヒメナイとアレクサンドロがいます。私は神を冒瀆してはならないことを学ばせるため、彼らをサタンに引き渡しました。

わお…。共に祈りましょう。

天のお父様。あなたの御言葉を、今日、私たちの前に与えられているこの箇所を 本当に感謝します。

主よ、私たちは意識を集中させ続けるために、聖霊が必要です。私たちの思考がさまよったり、気が散って、あなたが今日私たちのために ご用意してくださっていること、あなたの御言葉を聞き逃したくありません。主よ、あなたがいつもして下さいように、いつも忠実であられるように、あなたが語って下さることを私は知っています。ですから主よ、私たちの人生に明確に、必要ならば個人的に、直接、それぞれに語ってください。主よ、あなたがそうなさる時に、私たちに聞く耳と、受け取る心をください。ですから主よ、お語り下さい。しもべは聞いております。イエスの御名によって、アーメン。どうぞお座りください。ありがとうございます。今日、私がお話ししたいのは、今日私たちが直面しているこの危機を主が私たちに 乗り越えさせて下さると、どのようにして、また、なぜ、主に信頼することが出来るのかについてです。私たちの前にあるこの箇所で、使徒パウロはテモテに、実質的に、どのようにして、彼がエペソにいる間に直面していた困難や危機を 乗り越えるかについて教えています。先週お話ししたように、テモテはそこに残ることを 望まず、そこを後にしたかったのです。パウロは彼に留まるように命じました。そして、そこにいた人々に対処するように、と。テモテはしたくありませんでした。このテモテへの一通目の手紙を読んで行くと、本当であることが分かってきますが、彼は内気で臆病なところがあったのです。だからパウロはこう言っているのです。

「神は臆病、恐れ、力の霊ではなく、力と愛と慎み(律された思考)の霊を与えた。」 (Ⅱテモテ 1:7 参照)

ある訳では、「健全な思い」と訳されています。私は「律された思考」と理解した方が 良いと思います。あなたは自分の子どもを躾けるように、自分の思考を訓練する。自分の思考に入ってくるものに、非常に注意するのです。そこが戦場だからです。ところで、戦場について話せば、私たちが生きてい

るこの世界は、遊び場ではなく、戦場です。そうですね？ ここでテモテは、この戦いのただ中、戦闘のさ中、危機の真ただ中にいます。そしてパウロは、彼に命じ、彼を諭し、彼を励まし、こう言っています。あなたはこのようにして、この危機を乗り越えるのだ、と。このようにして、あなたはこの戦い、この困難を乗り越えるのだ、と。その際に、パウロは、指揮官の権威をもって、また、それと同時に、愛に溢れる父親の愛情と優しさをもって、そうしています。私はパウロのそういうところには驚かざるを得ません。皆さんが使徒パウロにどんなイメージや、印象を持っているか分かりませんが、皆さんが彼のことをすごく威圧的な男だと思っても、当然でしょう。彼が部屋に入ってきたら、全員がまっすぐ立ち上がって「パウロが来た！」そうですね？ しかし、ここに彼の別の面があります。新約聖書の書簡の学びを通して、私たちは彼のことを知るようになりました。明らかになった事とは、彼は非常に愛に溢れた、恵み深く、優しい男だということです。なんとも愛に溢れた心をもっていただけか。今日共に過ごす時間の中で、私が達成したいことは、今、あらゆる事が起こっている状況で、私たちが置かれている戦いについて、皆さんを励ます事です。一步踏み込んで、皆さんを励ますことに加えて、神の御言葉と神の愛に基づいて、皆さんに約束したいと思います。あなたにとってそれがどんなに悪くても、または、これからどんなに悪くなっていても、神は、あなたにそれを乗り越えさせてくださいます。彼はそうせざるを得ないのです。（神は、しないことが出来ない）正しい英語でないことは分かっています。メールしないで下さい。神はあなたを乗り越えさせます。それがどんなに酷くても、または、これから酷くなって行っても。私は、それを皆さんに約束します。神がどんな方であるか、そして、神がどれほどいつくしみ深い方であるかに基づいて。どんなに状況が酷いかは問題ではなく、重要なのは、神がいつもいつくしみ深い方であるという事だけです。それが今日、私がお話ししたいことです。皆さんが励まされることを願います。私は、皆さんの多くが、本当に深刻な困難と向き合っていることを知っています。経済的な困難は言うまでもありません。私が皆さんと同じ報道記事や統計を読んでいるなら、

ここアメリカ合衆国での失業者数は、理解し難いものです。ここハワイでは、私たちの経済は観光に依存していますが、今は観光が存在しません。私はこのすべての展開を見ていて、これらのビジネスが閉じられて、もう二度と開くことがないのを見ています。経済は壊滅的な打撃を受けています。預言アップデートで、これについてお話ししました。それはすべて計画されていて、事前に計画されたもので、画策され、演出された、世界経済の破綻です。ここアメリカだけではなく、世界的にです。「大規模な再設定」の先駆けとして。そしてキャッシュレス制度、反キリストのシステムを誘導するものとして。

そして、そうなるためには、これは起こらねばならないのです。ところで、第一礼拝に出席されていない方、もしくはオンラインで観ておられない方は、ご覧になることをお勧めします。『患難前携拳』について話しました。携拳が絶対に、7年の患難時代の前に起こらねばならないという、御言葉からの7つの証拠について。以下は私が三つの「命にかかわる重要真理」と呼ぶものです。生命維持に不可欠な重要臓器があるのと同じ感じですが。あなたは腕の骨を折っても、ギプスをはめれば大丈夫です。しかし、もし重要臓器がおかしくなったら、もうおしまいですよ。これらは、重要な真理です。重要臓器のように、これらは必要不可欠な真理です。これらは、共に、私たちが置かれている戦いと危機の真ただ中で、私たちがどのくらい上手くやっつけられるかの決め手となり得る重要なものです。1つ目は、17節にあります。当たり前のように聞こえるかもしれないのは分かっていますが、『神がど

ういうお方であるかを知る。』この17節が私は大好きです。パウロが賛美の声を上げているようだからです。彼は、いかに自分が一番ひどい悪人で、罪びとの頭であるかを話し終えたところです。彼は冒瀆する者で、クリスチャンを殺し、神を助けられていると信じていたのです。しかし神は、彼に恵みと憐みを示されました。

そして、彼は17節で、神に向かって賛美の声を上げているのです。神がどういうお方なのか、何があったとしても、神が常にどんなにいつくしみ深いか。彼が初めに言っていることを聞いてください。

「彼は世々の王。」皆さんが私のようなのであるなら、そうだと思いますが、ここを、さっと読み進めてしまいがちだと思います。「ああ、分かっている分かっている…」と。しかし、そうしないで下さい。これを、詳しく見てみましょう。これをじっくりと見てみましょう。彼は最初に、「彼は世々(永遠)の王」と言っています。この意味が分かりますか？ 彼が永遠に王として君臨する。彼はすべてを支配し、全ての決定に最終決断を下します。これが全てを変えるはずです。それは皆さんが経験している困難や試練や危機の、様相全体を変えるはずです。皆さんは、神が永遠の王であり、彼がお許しにならない限り、何事も起こり得ないのを知っているからです。神はすべてを支配し、全ての決定に最終決断を下します。ライブ配信する前に、私たちが丁度話していたように。オンライン教会の方、申し訳ありませんが…。神は人の憤りさえも、ご自分への賛美に変えられるのです。悪のために計られたことでも、神はご自分にしか出来ない方法で、良い事のための計らいとされます。今日、多くの人々を救われるために。神はすべての事を働かせて益をもたらします。神は悪を用いて、善を行うことがお出来るようになるのです。なぜなら、それが神のご性質だからです。神は永遠の王です。神はすべてを覆し、無効にし、そして、すべてをご支配されます。何事も神をかわすことは出来ません。神が最初に、「いいだろう。」と言わねばならないのです。「ちょっと待って。あなたは、神がこれを良しとされたと言うんですか？」 「はい。そうです。」

これについては先週お話ししました。神が、今日世界で起こっている事をお許しになるのは、彼にはそこから善をもたらす事ができ、そして、その故に、すべての栄光を受けられるからです。何人の人が、キリストの元に来たかご存知ですか？ さっき話していたカリフォルニアの教会は、約1500人ほどの教会… 私は待ちきれません。1万~1万5千人もの人々が来たと言いました。そうこなくっちゃ！ でしょ？ 人の怒りが…裏目に出るんです！ 考えて見て下さい。カリフォルニアでは…。ここで起こらないことを祈りますが、多分、お話ししたように、そうなるでしょう。しかし、これを考えてみて下さい。

いたる所から、その教会へ行くために、人々が車で乗り入れ、合衆国の多方面から飛行機で乗り入れたんです。考えてみて下さい。カリフォルニアの中で、唯一、実際に開いていて礼拝に行ける教会の一つだったのでしょ。これってどうですか？ 神はすべてを支配し、全ての決定に最終決断を下します。ここに判決が出るとします。「停止命令」 — 「おお、本当に？」 永遠の王が、最終決定を下されるかもしれません。「お~停止命令ですか」 第一礼拝の預言アップデートで、黙示録3章、フィラデルフィアの教会への手紙を見ました。とても興味深いです。私は今まで、今のこの状況に照らして、この箇所を見たことがありませんでした。「ヨハネよ、フィラデルフィアの教会へ書き送りなさい。」と言って、イエスは、基本的にこう言われます。「わたしが扉を開くなら、だれもそれを閉じることは出来ない。」「そして、わたしが扉を閉じるなら、誰もそれを開くことができない。」私はただ、「わお…」と考えていました。だから、人間が教会の扉を閉めましたが、神はこう仰っているのです。

「あー、もしもし?」「いいえ、わたしはそれを覆す。」「扉を開きなさい。わたしが開くなら、誰も閉じることは出来ない。」愚か者だと呼んでください。もっとひどい言葉で呼ばれた事がありますから。しかし、神は常に、最終決定権を握っておられるのです。神は全てを支配し、全ての決定に最終決断を下されます! 彼は永遠の王です!そこで決着がつくはずですが、もっとあります。もっと良くなります。テレビショッピングみたいに聞こえたらすみません。「でも、これだけじゃないんです!」二番目に、パウロはこう言っています。「神は、滅びることがない」「分かった。じゃあ神は永遠の王で、滅びることがない。それってどういう意味?」

それは、神は時が始まる前から存在し、時を創造した方であり、時間を超越して生きておられるという事です。それについて、よく考えて下さい。神は時間を創造されました神はその前から存在されていた。

彼はアルファであり、オメガです。私はこれに問題があるのですが お付き合い下さい。はじめであり、終わりである。神は無限です。神は永遠の存在! 神は滅びることがない!それで、あなたの問題は何でしたっけ? すみません、悪気はないんですが。賜物なんです。ここで私たちは、パニックになって、心配して、煩い、恐れて、ストレスを感じていますが、神はこう言っているようです。「おーい!」「わたしは永遠の王だ!」「わたしは滅びることがない!」そしてさらに良くなりますよ。3つ目。「神は目に見えない。」これは面白いですね。これはどういう意味なのか? なぜこれが重要なのか? なぜなら、神の方法(道)は知る事ができず、見出すことが出来ないからです。イザヤが言っている通りです。「わたしの道は、あなたがたの道と異なる。」「わたしの思いは、あなたがたの思いと...」(イザヤ 55:8 参照)

想像できますか? 神が私たちと同じように考えられるとしたら? どう思いますか? それだったら、神ではないでしょう? もし神の考えが、私たちの考えのようであるなら? いいえ、それらはずっと高く、限りなく高く、知る事ができず、見出す事ができず、目に見えない!そして、4つ目。良い言い方が見つかりませんが、これで完結です。「彼は唯一の神です。」他に神はいない。そして、神だけに、すべての誉れ、すべての栄光が 世々限りなく、永遠に、永久にあるのです。以上、完結。パウロがテモテにこう言っているような 印象を受けますね。「私の息子、テモテよ。私はあなたを本当に愛している。」

「神がどういうお方であるか、分かっているか?」そこで、こういう疑問が出てきます。なぜ、これを知ること、もしくはこれを思い出すことが重要なのか? 特に、あなたが危機や試練の真ただ中にある時に。その質問に対する答えですが、神がどんなお方であるかを知り、理解することは、神はいつくしみ深いという真理に、私たちを(錨で)しっかりと固定させるからです。理由があつて、私はこういう表現を選びました。聞いてください。…この表現をお許してください。もし私が、どっちつかずで、行ったり来たりし、ヤコブが言うように、揺れ動き…教えの風に吹き回されたり、海に浮かぶ船のように、やってくる波にいちいちもてあそばれていたなら、私は船酔いしているでしょう。私がしっかりと固定されてないからです。だから、行ったり来たりして、不安定になる。不確かで、不確実で…すぐにこの話に入りますが、あなたは敵の思うツボです。いいですか。もし私が本当に心から、神はいつもいつくしみ深いお方であると信じていないなら、それなら私は、騙されて、神は私に怒っていると思い、私に敵対していると思うでしょう。これこそが、偽りの父からの嘘ではないですか? あー、ほら。皆さん、どうなるか分かりますよね? この映画を見た事がありますよね? あなたは、やらか

してしまいます。あなたは転び、失敗し、つまづき、罪を犯します。すると、敵がすぐそこにいます。そうですね？座って、ポップコーンをパクパク食べながら。彼はあなたのために、それをライブ上映します。そして、彼は何度も何度も繰り返し上映するのです。なぜか？なぜなら、彼はあなたを主から、そして、主の赦しから遠ざけておきたいからです。なぜなら、それはもうすでに支払われたからです。でも、彼はあなたにそれを知られたくないし、それを思い出されたくもない。なので彼は、この罪悪感と罪責感の基盤を構築したいのです。彼はあなたに何かを言ってきます。皆さんも確かに聞いた事があるはずです。こういう言葉を聞いた事があるでしょう。もしかしたら、違う表現かもしれませんが、それは、こんな感じです。「…あーあ」「私だったら、しばらく隠れておくな…」「お前はまたやったのか?!」「神が喜んでいとは思えない。約束までしたのに…！誓いもしたのに。」「『私はもう二度とやりません!』と。」ところで、そんなことしないで下さい！そして、彼はすぐそばにいて、あなたに思い出させ、あなたをしつこくなじるのです。「神は、あなたにはもううんざりだよ。」そして…「私だったら祈らないな。教会にだって行かないだろう。」「ああ大変だ。もし教会に行くと、隣に座っている人達に知られたら？」隣の人を見ないで下さいね。「お前が何をしたか…」そうですね？椅子の下に隠れようとしている人は、戻ってください。ローマ人への手紙8章。31節と32節を読みたいと思います。

#### ローマ人への手紙8章

**31では、これらのことについて、どのように言えるでしょうか。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょうか。**

敵は私たちにこう思わせたいのです。「神は今、私たちに敵対している」「神は私たちに怒っている」「そして、あなたが今置かれている状況は、神はだんまり戦術に出てるんだ。」32節の中で、彼は、なぜ神が私たちの味方なのかを詳しく説明しています。誰も、何も、私たちに敵対することは出来ない。特に、神は。神は私たちに敵対しているのではなく、私たちの味方です。その理由は次の通りです。

**32 私たちすべてのために、ご自分の御子さえ惜しむことなく死に渡された神が、どうして御子とともにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがあるのでしょうか。**

今の、聞きましたか？神が、ここで何を言っているか分かりますか？聞いて下さい。それは、こんな感じです。「あなたは、わたしがあなたに敵対していると思っているのか？」「わたしはあなたのためにこんなにもしてきたのに？」「あなたをとっても愛しているからこそ、あなたが永遠のいのちを得るために、わたしのたった一人の息子を送ってあなたのために死なせたのに？」ちゃんと理解できているか、最後までやってみます。我慢してください。「わたしはそれら全ての事をあなたのために成し遂げた。」「わたしの息子、わたしのひとり子は、あなたの為に死んだ。」「なのに、あなたは、わたしがあなたの味方だと思わないのか？」「ちなみに、わたしがあなたのためにこれをしたのなら、わたしがあなたのためにしない事が何かあるだろうか？」あなたの問題は何かでしたっけ？「ああ、でも、これは本当に酷くて…」あなたの人生の試練に目を向けるのはやめて下さい。なぜなら、あなたがそれに目を向ければ向けるほど、その問題は大きくなるからです。神に目を向けて下さい。もう一度、私は神の御言葉と、神の愛に基づいて、皆さんに約束します。イザヤが言うように、あなたの目を神に向けるなら、

**「あなたは全き平安のうちに守られます。その人があなたに信頼しているからです。」**（イザヤ

## 26:3)

そうする時あなたは、神の目線から、その危機、状況、困難、試練、苦難を見るのです。これが、私が思うに、イエスは... 厳しい言い方ではありませんよ。救い主が弟子たちに激しい口調を使われたとは絶対に思わないでください。パリサイ人やサドカイ人には、そうでしたが、弟子たちには違います。イエスが彼らにこう言われた時、「なぜ疑うのか？あぁ、信仰の薄い者たちだ。」こうではありません。「なんて信仰が小さいんだ！☹️」いいえ、決してイエスがそんな風に言ったと想像しないで下さい。皆さんがそうしない事を願いますが。敵はあなたにそう思わせたがっています。神は本当にあなたに怒っているという考えにはまるからです。違います。それはもっとこんな感じです。「あなたの信仰は、なぜそんなにも小さいのか？」「あなたの神はこんなにも大きいのに。」あなたが大きな神というレンズを通して、あなたの状況を見る時、それは小さく見えてくるのです。しかし、あなたの状況というレンズを通して、あなたが神を見ると、神が小さくなるのです。これが、パウロがテモテに言っていることであり、聖霊が今日、教会に対して語っていることであると私は思います。「耳がある者は、聖霊が語ることを聞きなさい。」「神がどんなお方であるか知っていますか？」「どれほど神が、あなたを愛しているのか知っていますか？」「彼はあなたの為にどんな事でもするのです。なんということでしょう！」「神はあなたのために、御子を 与え惜しむことすらしなかったのに、神があなたに与え惜しむものが何かあるのですか。」

「神がこれをされたのなら、あなたのためにしない事があるのでしょうか？」先日、私はこのことについて考えていました。これはただ、私自身の主との歩みのことですが、私は気がつくたびに…私は皆さんにずっと非常にオープンに話していますが… 私は未だに、不安や心配と葛藤しているのです。私は心配性なのです。あぁ、私は何か心配することを見つけるのです。もし心配事が見つからなければ、私はあなたのために何を心配できるか お尋ねします。そうすれば、私は心配できますから。それは私の人生で、神が本当に働きかけておられる領域なのです。だから私は時々、気づくと、怯えて、恐れて、悩んでいて、、、

まるで主がこう仰ってるかのようです。「何をしていますのですか？」と。「どうでしょう、主よ。先行き良くないみたいで。」「分かっています。わたしは先行きが良いのだよ。わたしを見たらどうだい？」

「なぜあなたは、これやあれやと悩んでいるのですか？」「まるであなたは、わたしが誰であるか、何が出来るかを忘れてしまったようだね。」「晴れた夜に見える星を知っているね？」「わたしが創造したのだよ。」「創造しただけでなく、名も付けたのです。」「たくさん名前です。神が名付けられたのです。ほ～海辺の砂は？ ある人たちは、空の星の数と同じだと信じています。あなたは永遠の王であり、不滅の王であり、目に見えません。そして、あなたにはすべての名誉と栄光があり、あなたは唯一の神です。そしてあなたのようなお方は 他におられません。

**「だれかあなたのような方がいるのでしょうか。」 (出エジプト 15:11)**

ところで、あなたは私の神です。彼は私の神であり、彼は皆さんの神です。こういう事がありますよね。まずい状況になって、若い頃は特にそうですが、あなたは力を誇示してみます。「俺の父さんはな...」  
「へえ、俺の父さんはな...！」これはどうでしょう。「私のお父さんは、天と地と海と、その中にある全てのものを創造したんだ！」どう？ それが私のお父さん。「お父さん」と呼んでもいいって 言ってくれたんだ。お父さん、アッバ、パパ。彼は私の神。彼は私のお父さん。彼がどれほど私を愛して

いるか知ってる？ 彼が私の為にしなない事なんてないんだ。彼は私の髪一本も 落とさせないんです。私の場合、多少、実際はかなり、落ちるのを許されましたけど。そして、それを知っておられます。どうですか？ マタイ6章の、空の鳥、野の花について思えば、神が、その美しい花を着飾らせるなら...それは今日はあっても、明日にはなくなるものです。彼はどれほど皆さんを装ってくださるのでしょうか？ 彼が鳥を養って下さるなら... 皆さんは、鳥を見たことがありますか？ 私たちと一緒にイスラエルに行かれた皆さん、時期によってはとても美しいですよ。ガリヤラ湖畔の山の横で、イエスが教えておられるのを想像して 思い浮かべてみてください。イエスは教えながら、空の鳥を指さし、これは非常に緩い言い換えですけど.. お許してください。こんな感じです。「君たち、あれらの鳥が見えるかい。鳥が納屋にミズを詰め込んでいるのを 見たことがありますか？」「ここにあるこの花が、てんてこ舞いしてるのを 見たことがありますか？」「この色は先週着ちゃったわ」とか。馬鹿げていますよね？ 「なおさら、、、なおさら、どれほど価値があるのでしょうか？ 神の姿に似せて想像されたのだから。」「神が鳥を養われるのなら、彼はあなたがたを養われます。一体あなたがたはどうしたんですか？」基本的にそう言う事です。それが要点です。下にキャプションを入れてもいいでしょう。「一体どうしたというのか？」説教のタイトルにすべきだと思います。『どうしたんですか？』『あなたがたは、わたしが何者なのか 忘れているのですか？』2つ目に進んだ方がいいと思います。これだけで一日中やられます。私がやれるのをご存知ですね？ しませんけど。2つ目の重要な真理。『神がしてくださったことを思い出す事。』18節。興味深いです。パウロはテモテに、過去に自分について 預言されたことを思い出すように言います。勇敢に戦いぬくために言い換えるなら、「テモテよ。あなたは、戦いの最中、危機の真っ只中にいるのです。」

「神があなたの人生で 過去にして下さったことを思い出さない。」これが具体的に、テモテにどんな預言が与えられたのか 私たちには分かりません。しかし、それが何であれ、彼はそこから必要な力を得るために、それに頼ることが出来た事は分かっています。言い換えれば、過去に神がしてくださったことを 思い出すということは、神が現在、そして 未来にさえも、何をしてく下さるかを 思い起こさせてくれるものになりえるのです。このことの最も良い例の一つは、ダビデの人生です。サムエル記上下を私たちと一緒に学んだ方たち、 ああ、とてもよく知られている、ある記述があります。それは、ダビデが父親に頼まれて 兄弟たちの様子を見に行くために、 戦場へ行った時のことです。兄弟の3人が戦場にいました。そして、この時までずっと、この無割礼のパレスチナ人が...ところで、ダビデは彼のことを一度も「ゴリアテ」という名で呼びませんでした。それには良い理由があって、ゴリアテというのは、チャンピオン（優勝者）という意味だからです。ダビデにしてみれば、彼はチャンピオンなんかではありません。彼は、彼の神の名を冒瀆していた、冒瀆者です。それは放っておけない。これは許しておけない。彼は戦場に現れ、そして長兄のエリアブに会います。私は彼は、ダビデに対して実に苦々しい思いを持ち、憤慨していたと思います。なぜなら、当時の文化では、今日も同じですが、長男が相続人だからです。サムエルが、サウロに継ぐ次のイスラエルの王に 油を注ぐために、エッサイの家に来た時、ダビデはその顔触れの中にさえ含まれておらず、他の7人の兄弟たちが並んでいました。常に長男が初めです。エリアブは、きっと背が高く、たくましかったでしょう。「私がイスラエルの王になるに違いない。」サムエルは基本的に、「あなたじゃない。」「私じゃないの?!」そして、彼は並んでいるすべての兄弟たちを見ていきます。その中にはいません。「エッサイ、あなたには他に息子がいますか？」 「私は確かに、主が言われたのを間違わずに 聞いたはずで

す。」「あなたの家に行き、あなたの息子に油を注げと。 エッサイの子が、次のイスラエルの王になると。」ここで父親は…そうですね？末っ子、この血色の良い、ハンサムな10代。そこでエッサイは言います。「実は、いますよ。」「彼はどこにいる？」「それが… 彼は外で羊の群れの世話をしている。」「完璧だ！彼を連れて来なさい！」実際に、物語の中では、彼を連れてくるまで、休んだり 食べたりしないようにという、緊急性があります。「彼を今すぐ連れて来なさい！」それで彼を連れてくると 案の定、彼こそがその人でした。 みんな困惑し驚き、 呆然としています。その時、サムエルは、**私たち一人一人の心に刻まれるべき 言葉を口にしたのです。**

**「人はうわべを見るが、（しかし）主は心を見られる。」（第一サムエル 16:7）**

皆さん、兄弟たちの様子が想像できますか？ 特にエリアブ。彼は末の弟のダビデの方を見ます。「冗談だろ？」「あいつが王になる？」その時、彼の心の中には、 すごい苦々しさがあったのだと思います。そこで、ダビデが戦場に現われます。彼は最初に誰に出くわすでしょう？ 長兄のエリアブです。エリアブは何と言うでしょう？「あ～私の可愛い弟、未来のイスラエル王、詩編の甘美な詩人よ。」違います。彼はこう言いました。「お前は何をしに来たのか？」「なぜお前が…？」「お父さんが私を遣わしたのです。」「家に帰れ～！これは男の戦いだ！」「あ～そうなのですか？」「ならば、男性方、なぜ40日40夜、、、」40は、裁きの数です。「あなたがたは無割礼のペリシテ人が、私の神の名を 冒瀆しているのを聞いたのですか！」「私に任せてください！」彼らはダビデをサウルのところへ連れていきます。サウルは、「あ～いいかいダビデ。まだお前は若い。」ダビデを説得してやめさせようとしています。ダビデは、「一体全体、どうしたんですか？」「これはよくない。」考えても見て下さい。彼らは40日40夜、神への冒瀆を聞いています。

ダビデはたった一回聞いただけ。それで十分。「それは許せない！私があのお喋りな醜い口を 黙らせてやる！」「私がするのはありません。神がなさるのです。私にやらせてください。」「恐れる必要はありません。ダビデがここにいます。」あなたはダビデを上から見下ろします。身長は、4フィート（約120cm）ほど？彼はサウルに話し続けて、自分にやらせてほしいと説得します。サウルは、「絶対に無理だ。相手はお前を昼飯代わりにして、（こてんぱんに打ちのめして） 残りを吐き出すぞ。」「相手は、お前が生まれる前から、人々を殺してきたのだから。」ダビデはサウルに言います。「あなたは分かっておられません。あいつは神を冒瀆したのですよ。」では、その話を見て行きます。17章34節です。

**「ダビデはサウルに言った。『しもべは、父のために 羊の群れを飼ってきました。』獅子や熊が来て、群れの羊を取っていくと、」（第一サムエル 17:34）**

**「しもべはその後を追って出て、それを打ち殺し、その口から羊を救い出します。それがしもべに襲いかかるようなときは、そのひげをつかみ、…」**

(あー、ラクダにとまったハエになって、それを見たかったな～)獅子の？ひげを？

**…それを打って殺してしまいます。」（35節）**

素手で ですよ。ほ～

**「しもべは、獅子でも熊でも打ち殺しました。この無割礼のペリシテ人も、…」**

(彼はまるで歯を食いしばるように言います)

**「…これらの獣の一匹のようになるでしょう。生ける神の人をそしったのですから。」（36節）**

**「そして、ダビデは言った。『獅子や熊の爪からしもべを 救い出してくださった主は、』このペリシ**



テ人の手からも 私を救い出してくださいます。」サウルがダビデに言った。「行きなさい。主がおまえとともにいてくださるように。」 (37節)

それには他に答えようがないでしょう？ 何が起きたか、お分かりですよね？ これはもはや「ダビデ対この無割礼のペリシテ人」ではなく、神なのです。この無割礼のペリシテ人にもそれが分かることになります。物語には出てきませんが、ダビデが出て行くと、ゴリアテが彼を見て、「冗談だろ？」と言うような感じです。「俺はカモにされてるのか？頼むわ～お前は何をしているのか？家に帰れ！」ダビデの兄が言ったみたいに。ゴリアテは大口を叩きます。私たちは彼が毒舌を吐くのを初めて見る場面です。

「おまえの肉を空の鳥や野の獣にくれてやろう。」 (44節)

ダビデは言い返します。「何か思い違いしているようだな。」「お前は、私に対する戦いだと思っているのか？」「違う。お前は神を冒涇したのだ。それは大きな大きな間違いだ。」「私じゃない。」「お前は神に敵対しているのだ。」もちろん、皆さんこの話はご存知ですね。要点は何でしょうか？要点は、ダビデが、神が過去になさった事に頼り、それをこの状況に当てはめたのです。こういう風に。「神は私の為に、あの時あのような事をして下さったんだから、今回も私の為にこれをして下さる。」

2006年、娘のノエルが亡くなった後、私と妻は、、、一緒にたくさん時間を過ごしました。もちろん私たちは悲しんでいました。そしてこういう感覚がありました。子どもの死を乗り越えられるなら、私たちは何だって乗り越えられる。その先に起こる事を私は知る由もありませんでした。私は、神がその時してくださった事に 何度頼ったのでしょうか？ 力と自信と大胆さを引き出すために。それについては後でお話しします。ですから神が私に、あれを乗り越えさせて下さるなら、何だって乗り越えさせて下さる。請求書の支払いをするお金がなかったあの時は？ 神はぎりぎりに、、、神はどういうわけか、本当にぎりぎりがお好きです。それって、信仰というものと 関係があるのかもしれませんが。しかし、まさにぎりぎりで、神は皆さんが 想像もしなかったような方法で与えて下さいます。皆さんは、似たような状況に置かれます前回それが起こった際に、神がしてくださった事を思い出していますか？ これって筋が通っていますか？ 私の馬鹿げた説明をお許してください。でも皆さん、神がこう仰っているのを 想像できますか？ 「あのな、そろそろお前も成長する時だ。」「自分のことは自分でやいなさい。」「わたしはあの時は、そうしてやったけど、自分で自分のことはする時だ。」「腕まくりして、しっかりやれ。」

いいえ違います。皆さんこんな顔してますけど。「そんなことあるんですか？」違います。神はそんなこと言いません。彼は皆さんを置き去りにせず、見捨てません。彼は世の終わりまで いつも皆さんと一緒におられます。神が今、私を見捨てると言うのですか？ 神は、私を捨てられません。彼は見捨てません。彼には出来ないのです。それは神のご性質ではありません！ 神があの時、私にあれをして下さったなら、今度も、私にそれをして下さいます。なさらない訳がないでしょう？ 事実、神は、、、こんな風に言うのをお許してください。誤解されなければいいですが。でも神がこう仰っているようです。「そう。わたしはあの時はああしたけど、さあ、見ていなさい。」「あれが凄いつて思ったのか？「これはどうだ。」

マズいですか？ マズくないのを願いますが、神が望んでおられるのは、ただ...地上の親である私たちも、子供たちを どうにか仰天させたくくなりますよね？ 子どもたちをびっくりさせたいでしょ？ 天

のお父様は、なおさらでしょう？ 彼はこんな感じで、、、 「わたしは、あなたをひどく驚かせよう。あんなのは比べ物にならない。」 「いや、あれはすごかったです。」 「あなたはあれがスゴイと思ったのか。」 「わたしが今からすることを見てなさい。」では次が最後です。

第一テモテ1章19節と20節、『神が与えて下さるものを持ち続けること。』神がどういうお方であるかを知り、神がして下さった事を思い出し、神が与えて下さるものを持ち続ける。パウロがここで言っていることは、いくつかの理由から興味深いものです。その最たるものは、強い信仰と健全な良心を持つ事が極めて重要である事を説明しているからです。私の言いたい事を説明します。彼はテモテに、信仰を保つよう言っている事に注目してください。信仰を保ちなさい。守りなさい。健全な良心も。それは、それらを拒絶する可能性があることを示唆していますね？ または、それらを保たない可能性が？ または、ある人たちがしたように それらを捨ててしまう？ これは興味深いんですが、パウロは個人的に名前まで挙げています。皆さん想像できますか？この二人は、この2000年間、彼らの名前は冒涇者として 聖書のページに記録されているんです。私たちには具体的には分かりませんが、パウロが、彼らをサタンに引き渡すほどの事でした。懲罰のためでなく、むしろ回復させるために。彼らは何をしたのか分かりませんが、パウロは彼らを見本にして、テモテにこう言っています。信仰を保ちなさい。神が与えられたものを手放してはならない。神は私に何を下さったのですか？ お～強い信仰です。どうやって？ 信仰は聞くことから始まり、聞くことは、神のみことばによるのです。(ローマ 10:17 参照) 健全な良心とは？ 私には今言えますが、あなたが聞き逃すように、敵は今、あらゆる手を使って皆さんの気を 散らせようとするでしょう。これはものすごく重要だから。どうかこれをお聞きください。健全な良心について話すとき、これは大変重要です。強い信仰と健全な良心がなければ、私たちは戦いの最中に確信を持ってません。「疑いは私たちから戦いにおける確信を奪う」自己の自信ではありません。イエスへの信頼(確信)です。これが理由です。霊的な戦いであって、私たちの信仰が弱く、私たちの良心が後ろめたいなら、敵は私たちを、疑いと罪責感で揺さぶるでしょう。もし、私が心の奥深く、または内心で、私が敵に、私の人格に関して、少しでも つけ込む理由になるものを与えているなら、私は打ち負かされます。彼はそれを知っているのです。罪がないという事ではありません。非難されるところが無いという事、主の前に清い心を持つという事です。告白していない罪も、隠している罪もないという事。神があなたを放免されたから、あなたは心にやましいところがないのです。神はあなたを許して下さった。神はあなたを清めて下さった。皆さんが戦場の真っただ中にいる時、そして私たちは戦いの真っ只中にいますが、あなたに最も必要のないもの...実際、起こり得る最悪な事とは、敵が来てこう言うことです。「神がお前を助けてくれると思うのか？」 「お前には言い訳はない。」敵はあなたに対してそれを利用してきます。なぜなら、あなたは基本的に、彼の好きな金額を 書き込める白紙の小切手を手渡しているからです。皆さんの信仰の口座残高を空にするために。 そういう喩えを使えらるとすれば。以下はパウロがエペソの教会に書いている内容です。

#### エペソ 4章

「ですから、あなたがたは偽りを捨て、それぞれ隣人に対して真実を語りなさい。私たちは互いに、からだの一部分なのです。」 (25節)

「怒っても、罪を犯してはなりません。憤ったままで 日が暮れるようであってははいけません。」 (26節)

27 節が大変重要です。

**「悪魔に機会を与えないようにしなさい。」 (27 節)**

悪魔に、足掛かりを与えてはならない。彼にきっかけを与えれば、(ドアに足をかけさせれば) 彼はずっと中にまで入ってくる。彼は店を開いて、めちゃくちゃにする。彼は兄弟を告発する者ですよ？ 彼は混乱の作者ですよ？ 彼が何をしたいか分かりますか？ 彼はあなたの主への信頼を剥ぎ取りたいのです。彼に、そうする口実を与えてはいけません。それで、敵がやって来てあなたを責め始め、罪に定め始め、こう言い始めると…「神は助けてくれないぞ。」「え？ どういうこと？ 私は…」そして、あなたは今や 芯まで揺さぶられています。あなたは健全な良心と強い信仰を持って、主の御力において強く立っていません。ダメダメ。それは出来ないよ。ヘブル 4 章 16 節が故にこれは聖書全体で私の大好きな聖句の一つです。私が聖書の全ての聖句について そう言っているのは分かっています。でも、これは特にそうです。この節が言っていることの意味合い、その影響のために。お聞きください。「ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、折にかなった助けを受けるために、大胆に…ちょっと止めます。傲慢ではありません。確信です。自己の自信ではありません。神への確信(信頼)。あなたは確信を持って、いくつかの翻訳にあるように、大胆に、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。」私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、折にかなった助けを受けるために。これが、先ほどの話に繋がります。皆さんは理解せねばなりません、私たちがキリストのもとへ来ると、サタンは戦略を移行します。そうですね？ 私たちがキリストのもとへ来る前は、彼は私たちがキリストのもとに来ないようにするため、あらゆることをするでしょう。再度、エペソですが、原語では 軍事戦略家というような概念が含まれていて、サタンがどのように私たちを研究し、私たちにつきまとうのか。戦争の写真などを見ると、男たちがテーブルに身を乗り出して、地図を見ながら戦略を練っていますね。それがサタンが私たちの人生にする事なのです。皆さんの人生という地図に。彼は皆さんを研究し、皆さんにつきまっています。彼はまるでライオンのようにうろついて、皆さんを滅ぼす機会を探しています。彼は大変忍耐強く、襲い掛かり、攻撃するための最適なチャンスを待っています。彼はただ待って、その隙、その弱い部分、その領域、その最適な機会を探しています。何が面白いかと言うと、荒野でサタンがイエスを誘惑した時、イエスが 40 日 40 夜断食した後ですが、再度、40 というのは裁きの数字です。最後には、イエスがサタンに御言葉、つまり御霊の剣でサタンに抵抗し、サタンは逃げました。それがペテロ(正：ヤコブ)の言ったことです。

**「悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。」 (ヤコブ 4:7)**

そうするのです。イエスはそれを、神としてでなく、人間としてなさいました。そうされたことを神に感謝します。なぜなら、イエスが神としてそうされたなら、、、「死んだ方がマシ！」となります。いいえ彼は、人間としてなさいました。基本的に私たちに見本を見せて下さる為に。悪魔が逃げ去るように、こうやって悪魔に抵抗するのだ。しかし、その記述には興味深い詳細が記されていて、イエスが抵抗されて、ついに悪魔が逃げる前に、敵は逃げ出し、また、もっと良いチャンスがある時に戻ってくると書かれています。あ～それが聖書に書かれてなかったらよかったのに。それが何を意味するか、お分かりですか？ それはイエスが誘惑された事が一度記録されているだけですが、サタンが諦めたとは、一瞬たりとも思わないでください。これは人の子であり、神の子であり 神が人となられた、世界の救い主です。これは別のことですが、因みに ちょっとだけお時間をください。これは重要です。私たちが言いがちなのが、「やれやれ、悪魔が今週ずっと 私を攻撃してたんだ!」「悪魔がさ～悪魔

がさ～」 「本当に？」 あなたは何様なんですか？ 悪魔自身が？ うわあ～。そりゃあ、ホントにすごいですね。悪魔は遍在しないんだから。彼は一度にあらゆる場所にいられません。彼は一度に一箇所にしかいられません。あなたは、悪魔が世界の指導者を攻撃せずに、オアフ島の風上側にやって来て、あなたを攻撃していると言うのですか？ お～～！あなたは脅威に違いない。またしても馬鹿げていますが、皆さん、要点はお分かりですね？ サタン自身がイエスを攻撃し続けなかったとは、一瞬たりとも思わないでください。

彼は最適なチャンスを待っていた。彼は私たちの弱点を知っています。彼はその領域を知っていて、因みに、とにかく、、、ここがポイントです。私たちは、自分が一番強みのある分野でつまずきがちです。ペテロにそれを聞いてみて下さい。ペテロの最大の強みは何でしたか？ 彼の勇気。ペテロはどこで失敗しましたか？ 彼は、「あなたは彼らの一人でしょう。あなたはイエスと一緒にいた。」と言った女の子に立ち向かう勇気がありませんでした。そして彼は、自分の最大の強みである勇気という分野でつまずきました。これは、ローマ兵がイエスを逮捕しに来たときに、マルコスの耳を切り落とし、ローマ軍全体を相手どる気になっていたのと同じペテロ。これは、主だと気付いて、「私に来说ってください」と言って、水の上を歩いた、あのペテロです。それは勇気です。なのに彼はその分野で失敗しました。

要点は？ 要点はこうです。私たちが最も得意とする分野で失敗しがちなのは、私たちが油断しているからであり、サタンはそれを知っています。私がこの分野で弱いと分かっているなら？ 私は、そこに集中しますね。私はそれに焦点を当て、優先させます。そこが私の弱点だと知っているからこそ、警戒心が強くなります。私はその分野が弱いんです。油断しないようにしないと。一方、私がこの弱点の分野を警戒している間に、サタンがこっちにやってきます。お～！彼は私の人生のあの分野、強い部分にいつでもどうぞ、と招待をされているのです。だから、その時に、そこで、私は失敗しがちなのです。

これがサタンのすることです。彼はこれ一筋です。皆さんにその確信を持ってもらいたくないから。彼は、その確信を皆さんからどうやって剥ぎ取るか？ 後ろめたい良心です。信仰の弱さ。彼は、あなたが戦いに入ってしまうと、もう手遅れなことを知っているから。ハリケーンの時のようなものでしょうか。それが襲ってきたら、外に出て窓ガラスに板張りを始める事はできません。手遅れです。窓は、既に板張りされてないといけません。サタンはそれを知っています。ここがポイントです。私が理解して、神が与えて下さったものを手放さない時、神は私にこの信仰の賜物、この健全な良心、この清い心、この転嫁された義を 与えて下さっており、私がそれを持ち続けるなら、かかってこい！です。私には、聖なる大胆さがある。私は主に確信を持っています。そして敵がどんなに試みても、「消えろ！お前は敗れた敵なのだ！」 「お前にはそれをする事もできないし、 それをしてただで済むこともない。私にはこの確信があるのだから。」 「そして私は、神の恵みの御座に近づく。」そして、神は私に必要なものを何でも与えて下さいます。私はこれが大好きなのですが、私たちが恵みを受け取るために。お聞きください。私は気がつけばいつも祈っているのです。「あ～神よ。憐れんでください。 憐れんでください。」

神の慈悲と恵み。ある人が適切に言ったように、慈悲とは、神が私たちに当然の報いを与えないことであり、恵みとは、神が私たちに、受ける資格のないものを 与えてくださることです。私は両方いただきます。どこに受け取りの署名をしましょうか。私たちは、必要な時に助けて下さる 恵みを見つけ

ます。

神の助け、神の恵み、神の慈悲が 私たちに必要な時があったら、それは今です。そして、神は与えて下さいます。神は何も出し惜しみされません。皆さん、踏ん張るのです。私たちはやはり、イエスがヨハネに書かせた フィラデルフィアの教会に宛てた 手紙の中にあるこの事について話しました。

「わたしは、あなたには少しばかりの力があって、何とか持ちこたえているのを知っています。」

「もう少し踏ん張りなさい。」「あなたはわたしの名を否まなかった。 わたしの言葉を守った。」

「全世界に来ようとしている試練の時には、 わたしはあなたを守る。」 **(黙示録 3:7-10 参照)**

「踏ん張りなさい。」「わたしはあなたが何とか、 糸一本でしがみ付いているのを知っています。」

「だが、あなたには、わたしがあなたを助け、 あなたを切り切らせるという確信を持ってほしいのです。」「わたしには あなたにこれを乗り越えさせない という事は出来ない。」ご起立ください。祈りましょう。主よ、ありがとうございます。

愛なる天のお父様。ありがとうございます。主よ。今日の御言葉に感謝します。私を含め多くの人に適切に語られた言葉だと信じています。特にこんにち、世界であらゆる事が起きている状況で、 私たちが経験している全ての事に直面して、 私たちがあなたのいつくしみ深さを 疑い始める時があるからです。容易いのです。あなたから 目を離してしまうのは、とても簡単です。主よ。私たちが本当に思い出さねばならなかった事を 思い出させて下さり、ありがとうございます。この一種のリセット、再起動とでも言うものを、一歩下がって、あなたがどういうお方であり、あなたがどれだけいつくしみ深いお方であり、 いつもそうであられる、という観点から、 このことを再検討するために。主よ。苦悩している人、痛みを覚えている人、 特に、痛みを覚えている大勢の人のために 祈ります。彼らを励まし、彼らを力づけ、 あなたの栄光の限りを尽くして、新たに 彼らにご自身を明らかにしてくださいように。

どうか彼らを導き、励まし、 力づけて下さいますように。あなたが過去に何度、忠実に、恐ろしい状況を 彼らに切り切らせて下さったか、 思い出させてください。主よ。ありがとうございます。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7